

平成21年度 NPOと行政の協働会議 第3回全体会

日時：平成21年11月20日（金）10:00~12:00

場所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室

出席者：【NPO部会】黒田、山崎、前川、能島、野崎、田中、中村

【行政】宮崎、佐伯、藤原

事務局：小森、是川、秋澤、松井、阪上

（敬称略）

協議題

つながりワーキンググループは日程を決めたものの、突然の欠席者が多く開催には至らなかった。このため特に報告事項はないが、後ほど協議したい案件がある。

委託・指定管理ワーキンググループも前回の全体会以降開催できていない。議論することはいろいろあるので、これから日程を決めて開催していく。

また、今年の第1回全体会で、県から話のあったNPO法人の情報公開システムは、現在どうなっているのか。

緊急雇用対策事業として実施することができたので、作業を進めている段階である。

公開が具体的になる前に、各団体へは事前に伝えていただきたい。

この会においても、事前に皆さんにお伝えしたい。

公開するフォーマットについては、新たに様式が決められることになるのか。

現在、県に提出されている報告書をそのまま公開することを予定している。

あるNPO法人から優れた内容の報告書を作成したが、県から簡潔な内容にするように言われたという相談を受けたことがある。

報告書の内容が長いものや、県のフォーマットをアレンジして出したいところなどはリンク張りできるなどにしたい。

県から言われると、言われた側はそうしなければいけないと思いこんでしまうところがある。

指導ではなく、アドバイスだったのではないか。

アドバイスと捉えていないNPOもある。

そのような事実があったのかは確認しておく。

指導かアドバイスはともかく、継続性の観点から考えると、同じ団体が毎年違うフォームで出してくるなどがあれば、アドバイスはあったほうがよい。

公開されるようになると、自然な形でフォームが統一されていくのではないか。

報告書を出していない団体についてはどう対応するのか。中間支援で各団体のフォローをする立場としては気になる。

中間支援・マネジメント系ワーキンググループは10月20日に行い、中間支援の課題についていろいろと意見交換を行った。ほとんどすべての中間支援は、運営面で苦しんでいる。とはいっても中間支援の機能は必要とされている。

どのような中間支援がいいのかも意見が多く出た。しかし、パターンやミッションとしていているところは様々で、運営形態も公営や民営があることから、ひとつにまとめ

て中間支援の方向性を出すことは難しい。

また、中間支援を定款に挙げているNPO法人は、県内においては全体の4割近くもある。しかし、現状を見たところ、定款に挙げているだけでは中間支援とは言えない。

中間支援は事業の収益性はあまりない。中間支援をするために他の事業をしているのが現状。しかし、事業にこだわるとおかしくなる。純粋な中間支援だけでは団体として成り立たないという実情から、行政と連携・協働のあり方を明確にしていく必要があるのではないか。

このように大まかには絞り込みはできてきた。具体的な提案について今後、討議を重ねていきたい。

中間支援にはいろいろなケースがあるため、整理して議論していったほうがよい。ミッション重視で中間支援をしているところ、行政と協働して中間支援をやっているところ、そしてテーマ統一型でネットワークを行っているところなどがあるが、運営が苦しいのは、ミッション重視の中間支援。

兵庫県は民間の中間支援が多いという特徴がある。県内NPO法人の40%が定款で中間支援を掲げているが、実質とは関係がない数字。実際に中間支援を行っているところの実態を知る必要があるし、県内の中間支援のバリエーションの豊かさを大切にしていける必要はある。定義付けするよりは、様々なタイプ、レベルがあることを知って、今の活動状態を共有することは大切。

また、中間支援は時代の動きに敏感でなければならない。様々な隙間に入っていくのが中間支援だと思う。

中間支援の分類を考えているわけではない。中間支援はこうだと規定するのではなく、自分たちの位置がどこにあるのかを考えるとという点でも、多様化している中間支援の全体像を把握していくことが大切。

ワーキンググループ内での議論になるが、中小企業支援センターがずっとあるように、NPOの中間支援もずっと必要だと考えている。

組織運営と事業運営は分けることはできないもの。組織運営という土台があって初めて事業が成り立つと考えている。とにかく県内の実情を把握することが必要では。

昨日、阪神北の市町にある中間支援が集まる、ゆるやかなネットワーキングに参加してきた。東播磨には阪神北のような中間支援は少ない。北播磨を加えても少ないので、阪神北のようなネットワーキングは成立しない。何故かというと阪神間は行政と協働している中間支援が多いからかもしれない。同様のことはできないが、東播磨としても違う形のものを開きたい。

どのようなことが情報として共有されたのか。

県民局の事業のPRや緊急雇用の取りまとめなど。参加団体のやっている規模の大小の差があるので、ゆるやかさが長く続ける秘訣になっているようだ。

また、財政の問題が大きいと感じている。委託や補助に依存する傾向が強いので、そこをどうするかが課題にもなっていた。

NPOが力をつけて強くなれば、中間支援は必要なくなる。それを目指して活動している。

中間支援はそろそろ解散や合併などNPOの終わり方などを教えるやり方もフォロ

ーする時期に来ているのではないか。

そういうことを指導することができる場所も必要。NPOが社会的なセクションになるためにもきちんとした運営ができなければいけない。

姫路にもNPO連絡協議会があるが、どこも抱えている課題はお金と人。

中間支援というのは事業体なのか機関なのか。事業体であれば目的が達成すれば、無くなってもいいが、機関というのであれば違うものを繋げたりする役割も担っているのだから、存在し続けることが必要。そのあたりを踏まえた議論はある。

## その他

震災15周年について、どこかの事業と一緒にできるところはないかと探したが見つからなかった。予算がないため工夫が必要。何かよいアイデアがあれば出してもらいたい。また、この会議体で15周年を行うかどうかを改めて意見を言っていたきたい。

このメンバーだけでも、15周年を振り返る場を設けることが必要ではないか。さらに過去のメンバーにも来てもらい、「協働会議のこれから」というような総括を節目として行ってはどうか。そして、次は何を目標にして、次年度の方針につなげていけるようなものが必要ではないか。ここは県行政とNPOの唯一の会議。緩やかなネットワークワーキングなのか、この会議の役割を明確にしていくべきかを考えていくのはどうか。会場もプラザのセミナー室でできる。

市町単位の連絡会でも大体同じようなことを行っているところはある。

昔と比べると、行政との協働の環境が改善してきている。

機関説と事業説で言うと、事業体なら課題が少なくなってくると役割が薄くなっていくことは当然。

地域レベルではまだまだ課題が残っている。

この10年間、協働会議が何をやってきたのかを振り返る必要はある。また、この10年間でどれだけNPOが広まったのか、今NPOの何が課題になっているのかを議論する必要はある。

事務局のほうには過去の議事録など資料は残っている。総括会議を開催して行政も含めて初期の人が来ていただくと面白い企画になる。事務局とつながりワーキングで総括会議の叩き台を作成してはどうか。

## 次回開催日

日時：平成22年2月1日(月) 16:00~18:00

場所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室

## 総括会議(予定)

日時：平成22年3月18日(木) 13:30~16:30

場所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室